

Long-COVID/PASCの診療体制構築に関する提言

当科ではコロナ・アフターケア外来をいち早く開設し、Long-COVID/PASCの診療にあたっております。同様の趣旨の外来が少しずつ全国に設置されつつありますが、COVID-19罹患後の症状を訴える患者数に比して、いまだ十分ではないのが現状です。その一部は、本症同様に病態・病因が未解明で本邦でも多くの患者さんが苦しんでいる筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群（ME/CFS）と解釈できるものも含んでいると思われます。双方の診療および研究面でのネットワーク構築とそれによる国民への正しい認知を目指し、伴先生・倉恒先生を中心に現状について提言記事にまとめました。

COVID-19後遺症の診療体制の構築を急げ—ME/CFSの診療経験から学ぶ

伴 信太郎（日本疲労学会理事／愛知医科大学医学教育センター特命教育教授）

倉恒弘彦（日本疲労学会理事／大阪大学大学院医学系研究科招へい教授）

大塚文男（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科・総合内科学教授）

片岡仁美（岡山大学病院ダイバーシティ推進センター教授）

石川真紀（CFS（慢性疲労症候群）支援ネットワーク会長）

登録日：2021-11-08 最終更新日：2021-11-08

伴信太郎, 倉恒弘彦, 大塚文男, 片岡仁美, 石川真紀. 日本医事新報社 (2021)
<https://www.jmedj.co.jp/journal/paper/detail.php?id=18368>

